

会費納入のお願い

正会員、準会員、賛助会員で昭和62、63年度会費の未納の方は、事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No.128259）宛、または同封郵便振替用紙をご利用下さい。
（会計委員会）

原稿募集について

次号（第7巻、第1号）の発行は昭和63年6月30日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは昭和63年3月31日（木）必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。
（編集委員会）

編集後記

6巻2号を会員の皆様のお手許にお届けします。原著5編（うち英文2編）、臨床2編計7編のほか、歯科医療公開講座の講演、海外レポートが掲載されています。

英文2編投稿は大学研究の国際化が唱えられている折柄、本歯学部のみならず本誌にも意義深いもので感謝にたえません。また基礎講座からの論文は本年8月末に札幌で開催された第29回歯科基礎医学会の総会終了直後の投稿でしたので、感謝のほかありません。臨床講座から臨床2編の投稿があります。本歯学会の第2雑誌ともいわれるデンタルトピックスは歯科医師の研修という意味合いを持っていますので、その執筆者は主として臨床の先生方です。その雑誌と学術雑誌としての本誌とが相補完によって本歯学会の発展、ひいては本歯学部における教育、研究の向上、進展に与るものと考えておりますので、本誌への投稿についても理解していただき、それぞれの特徴ある両雑誌の質を向上させていきたいと存じます。この意味で今回の臨床2編を感謝いたします。

地域医療に貢献する開かれた大学として、医・歯学や医療の最近の進歩に対する生涯教育の重要性に鑑みて、本歯学部では歯科医療公開講座が設けられ、第1回の講演会が「医事紛争の解決とその予防」をテーマとして旭川市で開催された。榎本貞司先生と黒木俊郎先生の講演内容を収録しました。これはこの講演を時宜に適した緊要なものと考えられた専務理事岡田先生が、講演録音テープから原稿を再生され、それを講演者両先生に校閲していただいたものです。ご多忙のところ3先生に厚くお礼申し上げます。医療の法的解釈をはじめ、紛争の事例があげられて、どのようにして紛争が防げられるか、医事紛争の法律知識の必要性が書かれており、実地医療に携われる先生方には是非一読していただきたく存じます。

歯料理工学教室の荒木先生に、ロンドンなどの北欧やドイツなどの大学や研究所の歯科材料研究室のそれぞれの専門の先生と話し合いされた研究の内容について寄稿していた。帰国後、疲れの残っている中を早速エピソードをいれた、爽やかな筆致で書かれており感謝のほかありません。

札幌線で年配のご婦人から「しばれる」という言葉を聞いて、久し振りに北海道に永く住む人の氷結についての、実感の言葉に改めて地方色を味わった次第である。（T.O. 記）